

## 社民党、護憲主義宣言！



福島 瑞穂 党首



衆議選の結果を受けて懸念される事態が浮き彫りになってきた。**改憲の危機―九条の危機**である。公示前の議席十一から三十増の四十一議席と伸ばした日本維新の会は、国会で憲法審査会を毎週開催して改憲案をまとめ、来る参議選で改憲の国民投票を同時にやれと煽っている。

自民党もその動きと歩調を合わせ「憲法改正推進本部」を「憲法推進実現本部」と衣替え、いわば臨戦の構えだ。

「憲法改正・国民運動委員会」を新設し、全国での遊説や集会を進めていくという。

**驚いたのは国民民主党だ。**十二月九日に開催された衆院憲法審査会の「与党側」幹事懇談会に出席し、自民党や公明党・維新の会と同一歩調で改憲を進めると言う。その前には野党の国対から早々と離脱、維新と連携していく方向を打ち出していた。

**一方で立憲民主党は「政策立案型」**政党を掲げ、定例の野、

党の国対委員長会談をやめ、必要があれば協議をする方針という。こんな姿勢で果たして与党の横暴を国会で止められるのか？

野党が内部から崩れることによつて、何よりも改憲の危機が迫っていることを痛感する。

政府・与党が検討を本格化している**敵基地攻撃論**に至っては論外である。

二〇二二年の年末までに国家安全保障戦略を改定し、防衛計画大綱や中期防衛力整備計画に反映させていくというのだ。そもそも専守防衛を超える「戦力」を持つことが**明らかな憲法九条違反**であり、許されない。



「敵基地」を一挙にたたき落とすなど技術的にも全く不可能であり、もし先制的な攻撃をしようものなら抑止どころか宣戦布告になつてしまう。たちどころに日本が戦場になり壊滅する現実味に、まさか想像力が及ばないわけではあるまい。

また、そうした攻撃能力に踏み込めば、東アジアにおける果、

決してしない軍拡競争を誘発してしまふことになるのは明らかだ。隣国に誤ったメッセージを出すべきではない。「敵基地攻撃論」は即刻撤回すべきではないか。

**社民党は文字通り「護憲の政党」**である。「護憲」を強く訴える政党が今こそ必要なのだ。

今日の情勢を見る時に、社民党の役割の大きさに戦慄を覚える。来る参議選が日本の政治にとつて決定的な曲がり角になるのか、同時に、わが社民党にとつていかに重要な闘いであるか、万感の思いをこめて**党員の皆さんに問題提起**したい。

社民党全国連合幹事長 服部 良一

### 伊方原発廃炉に粘り強く！

昨年暮れに「伊方原発廃炉・上関原発計画を許さない」愛媛・大分・山口共闘会議の総会が開かれまし



総会では①伊方三号機は十二月二日に再稼働、一月から商業運転の再開 ②上関原発の建設計画について、中国電力は建設予定地で活断層の有無を調べるための海上ボー、

リング調査に必要な許可申請を山口県に提出、山口県もこの調査の許可を出している現状を認識しました。

### 脱炭素に悪乗りし！

原発を取り巻く状況は、二〇一九年十二月ポーランドで開催されたCOP25において欧州が二〇五〇年までに、温室効果ガスを実質ゼロにする目標を掲げ、菅首相（当時）は二〇二〇年十月の所信表明演説で、欧州と同様の事を発表し、「グリーン成長戦略」も公表した。しかし、脱炭素を表明しながらも原子力発電を「脱炭素の確立した技術」と位置づけ、さらに原発に依存する姿勢が強調されています。

このことを踏まえ、共闘会議は伊方三号機の廃炉と上関の新規建設は認めない。そして、全国に点在する四十年を超えた老朽原発の再稼働を認めないことを確認し、状況に応じた的確な取り組みを行うこととしました。

その後、総会参加者は日吉原の「大分バイオマスエナジー合同会社」を見学しました。

県連合幹事長 馬場 徳明

2021年 運用開始  
大分バイオマスエナジー







NETフリックスが全世界に配信中のドラマ「新聞記者」(全六話)が好評だ。モリカケや財務省の公文書改ざん事件をモチーフにした同作の人気上昇に、安倍夫妻は真つ青に違いない。

「新聞記者」は二〇二〇年の第四三回日本アカデミー賞で最優秀賞を受賞した同名映画のドラマ版。映画と同じく藤井道人監督がメガホンを取った。

米倉涼子が主人公の東京都新聞社会部記者演じるほか、綾野剛や横浜流星ら豪華キャストも目白押し。

十三日の配信開始から早くも日本国内で視聴

「された」今日の総合トップ一位を獲得する人気ぶりだ。海外でも上位に食い込み香港・台湾でも上位にランクイン。英紙は「日本が国民の無関心によって不正の沼にはまろうとしている国だと示している」と評価した。以上FBIより抜粋

**「私や妻が関係していたということになれば、それはもう間違いない総理大臣も国会議員もやめる」**

二〇一七年二月十八日のこの安倍総理(当時)発言から始まった公文書の改ざん。改ざんを強制された赤木俊夫さんは自死へ追い込まれた。赤木さんの妻が損害賠償を求めて裁判に訴えたが、昨年末国が非を認め認諾という形で終わった。しかし、国に対し不開示とした決定を取り消すよう求めて提訴している。

現在、国会でも取り上げられているが、一億円の賠償金を公文書改ざんという犯罪を犯した佐川元理財局長には求めず幕引きを図ろうとする岸田政権に怒りを！



党員・党友の登場です！



宗方支部支部長 藤好 郁章 さん

五十二年前、市内の高校を卒業して兵庫県の伊丹郵便局に集団就職しました。厳しかった親元から開放され青春を力いっぱい謳歌していました。

入局して間もなく全通に加入し、青年部の活動もするようになりました。

今でも思い出すのは、今は亡き衆議院議員だった土井たか子さん(後の社会党委員長)が、全通の学習会に講師としてよく来て頂いていたこと。

スポーツ交流会では、吹田市にあるボウリング場でプロボウラーの中山律子さんと良く会話をしたと。

やっと都会の独身生活に慣れた頃、都会で遊びに夢中だった子どもを心配したのか、親父から「大分郵便局に転勤希望を出せ」の一言で否応なく大分郵便局へ、

出勤初日、更衣室に入るとロッカーが運悪く？片山党員(当時、青年部役員)の隣り！あれから四十八年、未だに付き合う破目に…。

居住地が松が丘で、故吉山和人県議会議員の選挙戦途中、入党しました。

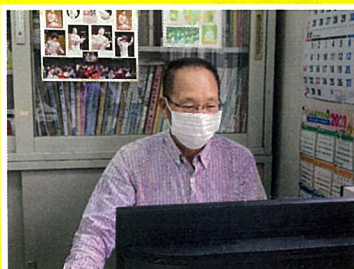
四十七年間の郵政生活でした。途中、大分東郵便局、大分南郵便局へ。

退職後、畑中にある「コップ大分」で高齢者向けの弁当配達として働いています。

以来、現在に至っていますが、微力ながら昨年度より宗方支部長として頑張っています。

宗方支部 藤好 郁章

大分県連合ズーム会議で奮闘する馬場幹事長



新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、社民党全国連合もオンラインでの会議が増えました。最初は少し戸惑っていましたが今では慣れました！



年末の予想が的中です！オミクロン株が5波を上回る物凄い勢いで増えてきています。大分県も1月25日蔓延防止等重点措置の適用が決定されました。この急激な増加で、飲食店・観光地は客足が激減し大打撃を受けています。一刻も早く補助金が行き渡るようにしなければなりません！

政府は3回目のワクチン接種と子どもへの接種も推進し、大分県内でも3回目のワクチン接種が始まりました。本当に必要なのか躊躇している人も多く聞きます。肺炎にならなければ市販の解熱剤も有効なのではとも言われています。

兎に角、先ずコロナ感染を自ら守らねばなりません。老人介護する日常の中、なるべく買い物に行かず密にならぬよう自粛生活をしようと思います。

